

## やっぱり野菜は直送！ もちろん中泊産で

2018青森人の祭典に町が出展

11月7日(水)と8日(木)の2日間、上野公園噴水前広場(東京都)では東京青森県人会が主催の「2018青森人の祭典」が開催されました。町では、販売ブースを出店し、町特産物直売所「ピュア」と若手農業者団体「ぼろかだる会」の協力で、直送ならではの野菜鮮度、地元産野菜の美味しさをPRしました。イベント初日の11月7日は濱館町長がステージでマイクを持って、販売ブースと地元産品の紹介でイベントを盛り上げました。出展したブースでは地元直送の野菜や加工品などの地元産品の販売のほか、試食や試飲、通販用のチラシを配布しました。平日にもかかわらず大勢の来場があり、直送野菜は完売になりました。首都圏の集客力が高いイベントで地元産品の宣伝をしたことで、新規顧客の獲得や販路の拡大が期待できます。



ステージでPR

ブースは大賑わい

## 岡山・香川で津軽海峡メバルを叫ぶ

津軽海峡メバルは、生がいいね！

濱館町長が岡山県と香川県で、津軽海峡メバルのPRをしました。

中国・四国地方に店舗を展開している大手スーパー「マルナカ・山陽マルナカ」の全201店舗では、11月7日(水)から11日(日)の5日間、あおり産品コーナーに県産品を並べて販売する販売促進イベント「青森県フェア」が開催されました。マルナカ・山陽マルナカ・青森県の3者が主催で、三村知事とともに濱館町長が2店舗でトップセールスを行いました。小泊漁協職員も参加して、中泊町と津軽海峡メバルのPRで会場を湧かせました。

旗艦店で行われた県と合同のセレモニーが終わってからは、町独自でPRイベントを開催。濱館町長が自ら鮮魚売りの店頭で立って、津軽海峡メバルの美味しさを集まった人に訴えかけました。PRでは、メバルを刺身で試食してもらい、生のメバルの美味しさを味わってもらいました。マルナカ・山陽マルナカがある地域では、メバルを刺身で食べる習慣がないそうです。煮付けや塩焼きで食べるのが定番で、生のメバルを食べたのは、初めてという人が少なくありませんでした。濱館町長のPRと試食の効果は抜群で、用意していたメバル約18キロはあっという間に売り切れ、町独自のPRも大盛況の内に幕を閉じました。

このPR活動で、生のメバルの美味しさを遠方へ発信できたことだけでなく、漁師が獲ったメバルを消費者に届けるまで携わったことで、「メバル推し」での地域活性化に対する意識がより深まったのではないのでしょうか。



合同PRの様子



町独自のPRイベントの様子